

東京歯科大学同窓会会報

東京 千代田区神田
行所
東京歯科大学同窓会
編集 関根永蔵
発行 永蔵
電話 九段(33) 6446(代)

新理事長、学長

就任式厳粛に行わる

四月二十五日母校ホールにおいて

四月二十五日午後一時より、母校ホールにおいて、石河幹武新理事長および福島秀策新学長の就任式が、多数の来賓、同窓、教職員、学生参列の下に、盛大のうちに厳粛に行われた。

式は大井清教授司会の下に、まず榎本美彦理事より、新理事長、および学長が決定されるまでの経過について詳細な報告があり、新理事長および新学長が紹介された。つづいて新理事長石河幹武氏が立たれ、諸葛孔明のお話を引用して丁寧な御挨拶があり、終つて新学長福島秀策教授が力強く挨拶された。その後、斎藤久教授が教職員代表として推薦の辞を述べられ、学生総代として四年生の坂登輝夫君が誓詞を述べた。最後に大井教授より祝電三十七通が披露された。

これによつて母校の発達たる両首長が内外に広く紹介されるところに、母校の基礎は益々安泰となり今後の発展、隆昌が期待される次第である。



挨拶をのべる石河新理事長



挨拶をのべる福島新学長

原稿募集

訂正

前号で本学衛生大学の第七回卒業式とあるのは第八回につき訂正いたします。

第七十一回例会開催御案内

本年度六月例会を左記により開催致します。会員の皆様の御来会をお待ち致しております。

日時 昭和三十三年六月二十三日(日)午前十時より

場所 母校第一教室

○午前十時—十一時
(補綴) リマウントプレートと陶歯削合

堀江 銑一氏

久し振りに堀江教授の登場である。重合された義歯を再び咬合器に装着して陶歯を削合する方法について、スライドを用いて説明される。

○午前十一時—午後一時
陳列場(ホール) 閲覧および昼食

○午後一時—二時(座談会)
(保存) 乳歯の治療法について

司会者 関根 永蔵氏
出席者 杉山 不二氏 渡辺富士夫氏 原 学郎氏
西条 征男氏 山下又次郎氏

最近「小児歯科」に対する関心が急激に高まりつゝある。そこで臨牀家の最も悩まされる乳歯の治療法について臨牀的かつ具體的に話し合われる。

○午後二時—三時
(矯正) 歯牙移動後の処置について

最近、矯正をもう一度勉強したいという人が多くなつて来たようである。そこで、これに答えるべく、齊藤教授に臨牀的に平易に解説をお願いした。

○午後三時—四時(座談会)
(外科) 抜歯後疼痛症について

斎藤 久氏

司会者 長尾 喜景氏
出席者 大井 清氏 三崎 鈔郎氏 高橋庄二郎氏
田村 八郎氏 中久喜 喬氏

今回は、母校外科部の教授、助教陣を総動員して、それぞれ得意の立場から本問題を説明される。必ずや臨牀家諸氏に益する処大なるものがあると思われる。

○歯科器械、材料、薬品の陳列即売会を同時に開催いたします。

○御来会の皆様にお土産と、講演抄録を差し上げます。

○歯科器械、材料、薬品の陳列即売会を同時に開催いたします。

○御来会の皆様にお土産と、講演抄録を差し上げます。

会員各位殿

会頭 榎本美彦

同窓会主催

新理事長、学長

就任祝賀会盛大に行わる

四月二十五日、椿山荘において

前述の新理事長、学長の就任式に引き続き、午後三時より椿山荘において、新理事長、学長の就任祝賀会がガーデン、パーティの形式で盛大に行われた。同日は生憎の雨天にも拘らず、来賓、同窓、母校教職員など七百余名が参集した。

会は井上同窓会幹事司会の下に祝賀会準備委員長田村一吉氏より挨拶がありつづいて祝賀会々々長榎本美彦氏より新理事長および新学長の紹介があった。その後、各代表の祝辞に移り、まず始めに歯科大学学長會議代表として日本歯科大学中野原氏が立上り、さらに日本私立大学連盟代表板橋菊松氏、慶応義塾々々長奥井復太郎氏、同窓校友代表小橋善男氏などが交々祝辞を述べられ、これを



右より板橋、中野、奥井、福島、榎本、田村の各氏



祝賀会々々場の一部

終つて新理事長、および新学長の挨拶があった。さらに司会者より祝電披露につづいて、同窓会顧問の大村一男氏の音頭によつて乾杯が行われ、大宴会に移った。なお余興として渡辺幹事司会により同窓随井氏令嬢の舞踊、高橋秀夫氏の手品、織家勝氏の声色などがあつた。また当日の主な出席者は木村厚生次官を始め、日本大学理事長古田重二郎氏、日本大学理事佐藤連雄氏、日本大学歯学部長鈴木勝氏、上智大学長泉孝氏、東京女子医科大学長久慈直太郎氏、東京外語大学長岩崎民平氏、東邦大学長細田豊氏、大阪歯科大学教授日本学術会議会員小野寅之助氏などであつた。

大学院設置に備えて

本学図書館の現状

御承知の如く、母校は目下同窓各位の涙ぐましく援助に答えて、福島学長以下全学を挙げて一路大学院建設に邁進しつつあるが、その大学院基準の内、極めて重要な部門を占める図書館の現状について報告したいと思う。

大学図書館が教員にとつて研究と調査の場であり、学生にとつて学修と教養の場であるが故、最高の教育並びに研究機関としての大学の使命達成上重要な役割を演ずることは言うまでもない。ところで文部省の医学、歯学大学院設置基準に示された図書の内容を見ると、医学、歯学教育の特異性に鑑み、一般人文学系大学院と異り、蔵書数、学術雑誌数等に對して厳格な基準が規定されている。今、これを参考までに紹介すれば次の通りである。

一、一般大学院基準(図書の部)
大学院は、その設置する課程に應ずる講義、演習、実験等の授業を用意すると共に、そのために十分な教室、研究室、設備の充実した実験室、蔵書及び閲覧施設等を整備した図書館を備えなければならぬと云う程度のものにすぎない。

二、医学歯学大学院基準は
図書、機械、器具及び標本は研究科学生のために、更に整備を必要とするが、特に図書については、次の基準によるものとする。
イ 専門図書 二〇、〇〇〇冊以上
ロ 学術雑誌 二〇〇種以上
ハ 内半数は外国雑誌とし、歯科専門雑誌各二〇種を含む。
以上のような次第で、今回の医学

歯学大学院基準が、非常に高い水準の図書、設備を要請している。

従つて本学図書館も理事会並びに大学建設委員会との絶大な理解の下に目下着々、大学図書館として恥しくないものとすべく、関係図書部長を中心として、専門課程においては山崎司書以下四名の館員が協力し、一、専門学術雑誌は歯科関係のものに特に重点を置くと共に、その他の医学関係のものをもできるだけ収集する。

二、最近の歯科専門洋書をできるだけ広汎に蒐集する。
三、各教授及び研究室の希望する専門書を優先的に購入する。
等の方針を定めて爾來、洋雑誌の選定を各教授に委任し、現在所期の計画通り図書及び整理等を順調に進めつつある。なお、専門学術雑誌整備にあつたては予算関係の交換を求め一応は必ず歯科学報との交換を求め極力経費の軽減を図り、やむを得ない場合のみ購入する方針を取り、今日に至つては其の結果、現在では若干の交渉中のもの以外はすべてすでに交渉済みとなつてゐる。

何故、医学歯学大学院基準が学術雑誌の数並びに蔵書数などを厳格に要求しているかについて、簡単に説明し各位の御了解を得たいと思う。現在、新発見研究等の発表は、内外共に個人的な自費出版の形で行われることは殆んど皆無で、すべてそれぞれの所属機関誌、または専門誌上に行われ、世の批判を問う状態にあることは周知の事実である。殊に医学歯学のように観察、実験を

重んずべき専門学科では、研究者はつねに内外の新研究を熟知しなければならぬばかりでなく、又研究者自身これを追試して見なければならぬ。かくしてそれらの新発見実験結果等を適正に批判し、且つ取捨して自らの研究を推進し、自己の新学説を樹立していかねばならぬ。このような見地から図書及び学術雑誌と研究室、或は診療室とは密接不可分の関係にあり、従つて専門学術雑誌が少数では、僅かに一部小範圍の研究成績を知り得るにすぎず、研究の完璧を期し難い。以上の点に鑑み、医学歯学大学院基準に専門雑誌二〇〇種と規定されたとのことである。

従つて本学図書館の現在における整備状態を紹介すれば、洋雑誌一〇三種を収集し、その内歯科専門学術雑誌は実に五十一種の多きを数えている。歯科専門学術雑誌をかくまで収集整備した大学図書館は、未だ本邦にその例を見ず、伝統に輝く本学が完全に先鞭をつけたわけである。

これは取りも直さず、本邦最古のそして輝かしい歴史の基礎の上に立ち乍らしかも常に新しい学門と思想とを摂取し、最高の歯科教育並びに医療設備を以て、教授すると云う学風を如実に具現するものである。

かくして、われわれは大学院建設を契機に、さらに奮起一番同窓各位学内教職員、学生及び同好の士、すべて一体となり、この計画及び事業内外共に誇示するに足る立派な図書館の建設に邁進したいと希う次第である。本学図書館を歯学研究のため、の宝庫たらしめると共に、充分活用され各位の糧とされて、人類福祉に貢献する世界的な研究業績樹立の支柱として、役立たせていただきたい。

東京歯科大学学会 へ御入会のお勧め

既に母校同窓会報紙上にて御諒承のことと存じますが、東京歯科大学学会は、従来本学教員を主体として専ら集談会様の形式にて運営されて参りましたところ、去る一月二十六日の臨時総会にて、名実共に母校の学会として相応しきものに発展的改組をいたすことに決定いたしました。

すなわち、会員を広く同窓諸氏より募り、機関紙の発行、学会の開催など活潑なる事業を行うことをその主なる目標と定めたのであります。貴校には何卒別項会則を御高覧下さいまして、此際同窓の士を御誘合せの上ぜひとも御入会下さるよう御勧め申し上げます。

東京歯科大学学会会長
福島 秀 策

お知らせ

理事長、学長就任式当日懷中時計を私にお預けになった方は御申出願います。

病理学教室 近藤 三郎

東京歯科大学学会例会御案内

別紙(折込み)の通り、同窓会例会の前日の六月二十二日に東京歯科大学学会第百四十二回例会を開催します。各位の御参加を期待してあります。

会長 福島 秀 策
同窓会会員各位殿

東京歯科大学学会会則 大きく改正さる

今回本会の発展的な再発足に伴い、その会則が大きく改正された。この新会則は次の通りである。

第一章 総則

第一条 本会はこの東京歯科大学学会と称する。

第二条 本会は会員の研究業績の発表及び学問を通じて会員の親睦をはかることを以て目的とする。

第三条 本会の事務所はこれを東京歯科大学内に置く。

第四条 本会はその目的達成のための事業を行う。

1 学会の開催、2 機関誌の発行

3 その他必要な事項

第二章 会員

第五条 本会は東京歯科大学の教員、研究科学生、研究生並びに本会の趣旨に賛同する同窓会員その他のを以て会員とする。

第六条 本会に顧問及び名誉会員を置くことを得る。

第三章 役員

第七条 本会に次の役員を置く。

1 会長一名、2 副会長一名、3 幹事若干名、4 評議員若干名、5 監事二

名

第八条 会長は本会を代表し会務を総理する。副会長は会長を補佐し会

事事故あるときは、これを代行する

幹事は会務を分掌する。評議員は会

長の諮問に応ずる。監事は業務及び

会計の監査を行う。

第九条 会長は東京歯科大学長これ

に当る。副会長、幹事、評議員、及び

監事は会長これを委嘱する。但し、

本学専任教授は評議員となる。

第十条 役員の任期は一カ年とす

る。但し重任を妨げない。

第四章 学会

第十一条 学会を分けて総会及び例

会とする。

第十二条 例会は年二回これを開催

する。

第十三条 総会は毎秋一回これを開

催する。但し、会長必要と認めたと

きは臨時総会を開くことを得る。

第五章 機関誌の発行

第十四条 本会は機関誌を発行し会

員にこれを配布する。

する帳簿を備え、これらの内容を評

議員会の承認を経て総会で公表す

る。

第七章 会則の変更

第十九条 会則の変更は評議員会の

議を経て総会においてこれを議決す

る。

付則

第二十条 本会則は昭和三十一年一月

二十六日よりこれを実施する。

大学院建設工事進捗す

四月初めに基礎工を終った旧館

並に別館は、次々と各階のコンクリ

ート打ちが進められ、五月二十三日に

はその全部を打終った旧館は地下一

階地上四階その上に動物小屋、別館

の方は地下下し地上四階その上に動

物小屋、両棟合せて約五百坪の建物

が本館の北西側に聳立した、省線水

道橋から見ると非常に大きな建物

として人目をうばっている。

旧館と称するのは大正十一年に建

てた古い建物を取り壊した後に建て

つて、あるもので主として此の度は実

習室並に研究室に当てられ、別館と

称する方は昭和四年本館の建築と同

切っている。

一方本館南側の新館と称する地上

七階の建物の方は既に一部根切工事

も初め杭打ちも初まった。少し工期が

遅れ気味ではあるが何となく予定通り

に進行せしめたいと関係者一同張り

切っている。

五月十四日本学を訪問、松宮教授、

河辺教授らの案内により校内を視察

した。

また、タイ国々立歯科大学長シー

博士は、五月二十一日本学を訪問、

視察した。



右より松宮教授、福島学長、コルクハウゼ博士、豊田日歯教授

奥村名誉学長 F.I.C.D
(名誉会員)の称号を贈らる

世界各國の有名齒科教育者並びに
に医政者から組織される國際齒科學
士院 (INTERNATIONAL COLLEGE
OF DENTISTS) は、本学奥村名誉
学長に去る三月十日付を以て、F.I.
C.D (名誉会員) の称号を贈る
ことに決定した旨、今般福島學長宛
に送られたのは、本邦に於いて奥村名
譽学長を以て最初とし、まことに慶賀
に堪えない。

なお、先般本邦の教育者ならびに
医政者七名に対し、F.I.C.D
が、初めておくれたのを機会とし
去る四月六日、國際齒科學士院日本
支部会が設立され、会長松宮教授、
理事水井日大教授、庶務日歯専務理
事、顧問中原日歯大學長が選任され
た。

アメリカ学会へ

本学研究業績の展示

アメリカ口腔治療学会 (A.A.E.)
本年度総会は、去る二月一日より三
日間にわたり、シカゴ市に於いて盛
大に開催されたが、これに先だち会
長ビアー博士および展示部長シュミ
ット博士は、本学病理学教室松宮誠
一教授に書簡を以て、同教室が多年
継続中の根管治療に関する研究業績
をこの学会場に展示されたい旨の要
請を發した。このため松宮教授らは、

鈴木、田熊兩助教授とともに、富士
写真フィルム株式会社および藤化成
株式会社との多大の協力を得て代表的
な成績を五十枚の大形天然色顕微
鏡写真に撮影し、長さ六米、幅一・
五米の展示板に配列して解説用パン
フレット五百部とともに、直ちに空

路にて輸送した。

この展示は、右學界に於いて多大
の注目をあつめたが、とくに、斯界の
権威ペンシルバニア大學グロスマン
教授は、絶讃の辭を松宮教授に送つ
たほか、アメリカで最大の設備を誇
るワシントン州立大學齒学部では、
右閉会後松宮教授らの承諾を得てこ
の展示品を同大學に移し、ここで再
び学内公開を行つた。



(写真は、ワシントン州立大學に於
けるその展示、左よりヒッケイ齒學
部長、イングル教授、オガビー教
授)

第十二回國際齒科
医学會議日本代表決定

来る九月七日より一週間にわた

り、ローマに於いて開催の、第十二
回國際齒科医学會議に派遣される日
本代表については、先般来日本學術
會議に於いて詮衡中とのころ、去る
四月十七日の同會議運営會議に於
て本学松宮誠一教授が国費派遣によ
る、唯一の代表として決定され、近
く總理府より発令されることになつ

た。

同教授は、右會議總会に於いて、
仏國フランク教授ほか、独、英、伊
ハンガリーの五教授との共同による
特別講演を行うほか、單獨にて追加
講演をも行う予定である。

溝上教授

欧米視察にきまる

溝上喜久男教授は、本年九月上旬
欧米各國の齒科教育、施設などの視
察に出発されることになった。教授
はまず松宮教授とともに、ローマの
國際齒科医学會議に出席後、スイス、
ドイツ、オーストリア、オランダ、デ
ンマーク、スウェーデン、ノールウェ
イ、イギリス、フランス、スペイン
アメリカなどの各國を廻られる予定
で、本年十一月末歸國される。

田熊助教授

米國へ招聘さる

本学病理学教室田熊庄三郎助教授
の齒牙組織に関する数々の電子顕微
鏡的研究は、かねて欧米諸國より注
目をあつめていたが、米國国立衛生
研究所 (N.I.H.) では、去る三
月十四日付を以て田熊助教授を「客員
研究者」として招聘することに決定
し、これを公式に通過した。

学内人事異動 (常勤者)

二月八日付

助教授 近藤 三郎
教授に昇任させる (病理学、口腔
病理学)

四月一日付、左の通り異動があつた。

教授に採用する (齒科補綴学)

助教授に採用する (生化学)

講師 西条 征男
(口腔治療学、齒科保存学)

講師 駒橋 武
(口腔治療学、齒科保存学)

講師 中久 善喬
(口腔外科学、麻酔学)

講師 塚本 忠義
(解剖学)

助手 北野 晋一
(口腔治療学、齒科保存学)

助手 宮内 孝雄
(齒科補綴学)

助手 久保田 英雄
(齒科補綴学)

助手 藤田 多賀雄
(口腔外科学、麻酔学)

助手 藤口 緯徳
(齒科補綴学)

助手 川島 康
(齒科矯正学)

助手 佐藤 徹一郎
(口腔治療学、齒科保存学)

助手 大森 清弘
(口腔外科学、麻酔学)

助手 倉澤 準之助
(口腔外科学、麻酔学)

助手 金井 良雄
(口腔外科学、麻酔学)

助手 見明 清
(組織学、口腔組織学)

助手 羽賀 通夫
(齒科補綴学)

助手に採用する (各通、五月一日付)

助手に採用する (各通、五月一日付)

助手に採用する (各通、五月一日付)

助手に採用する (各通、五月一日付)

助手に採用する (各通、五月一日付)

助手に採用する (各通、五月一日付)

助手に採用する (各通、五月一日付)

助手に採用する (各通、五月一日付)

助手に採用する (各通、五月一日付)

助手に採用する (各通、五月一日付)

助手に採用する (各通、五月一日付)

助手に採用する (各通、五月一日付)

助手に採用する (各通、五月一日付)

助手に採用する (各通、五月一日付)

助手に採用する (各通、五月一日付)

助手に採用する (各通、五月一日付)

助手に採用する (各通、五月一日付)

助手に採用する (各通、五月一日付)

助手に採用する (各通、五月一日付)

助手に採用する (各通、五月一日付)

助手に採用する (各通、五月一日付)

学会見聞記

日本細菌学会

同学会第三十回総会は四月七、八、九日の三日間、千葉市で行われた。会長は千葉大学医学部川喜田愛郎教授で、第一会場は県教育会館、第二会場は県自治会館であった。特別講演として溶血性レンサ球菌感染症(尾玉威博士)と結核菌の脂質(村山雄一博士)の二題の他、シンポジウムとして、細菌細胞等の形態学につき、座長、京大東教授のもと、湯浅明、高木篤、吉田長之、蜂須賀養悦、武谷健二の五氏を中心とし、電子顕微鏡下にみた超薄切片による細菌解剖学を組上にして半日活発な討論が行われた。

第二日の晩、評議員会が催された。終つて有志懇親会が千葉大学医学部構内で催され、夜寝を見ながら、模範店に舌つづみを打った。第三日の午後一時より総会議事が行われた。それに伴うならば、現在の会員数千八百名月刊、日本細菌学雑誌の他に先般英文雑誌が発刊せられる事となり、わたしもその編集者の一人となつてゐる。今般名譽会員の新規追加があつた(緒方規雄、小島三郎、小林六造、谷口勝二、田宮猛雄の五博士)。また新評議員として大崎助教授、森次和博士他十八名が選出され、かつ次回会長は岡山大学村上栄教授、開催地は岡山市に決定した。あわせて恒例の浅川賞授賞式があり、ロイコマイシンに関する研究に対し、秦藤樹博士は北研所長・北里善次郎博士より受賞される。ご承知のとおり同氏発見純培養の放線菌(*Streptomyces Kitasatoensis* Hata)の産生するロイコマイシンはサイクリン系抗生物質

質(テラマイシンと同系列)を世界で最初に発見されたもので、これに関し十数編の論文が発表されている。一般演題一五五で、齒科関係出題は私共の二題(乳酸桿菌の栄養要求の第三報、下水菌に関する細菌学的・免疫学的研究の第二報)と、歯菌大(細菌の抵抗機構)に関する研究の第七報、日大第一題(結核菌の抗酸性および非抗酸性について)、大崎一題(ビタミンCによるバクテリオリザートに関する研究)その他東京医大・中野彌博士らの細菌線毛様物質の本態の考察、および塩野義・西村治雄博士らの緑膿菌属のストマイ耐性について、などがあつた。

わたしは第一会場の第二日午前九時から三題座長を担当したが、日医大・八田義教授らの好塩菌に関する研究、岐阜県大助教授・鈴木祥一郎博士らの新たに分離した *Actinobacterium liquefaciens* と思われる嫌気性菌について、阪大整形外科

前田是氏他の慢性関節リウマチの血清学的研究の三題を司会し、早朝から活発な質疑応答が行われた。またラジオを通じて報道されたのであるが、梅沢浜夫博士らの新抗生物質、カナマイシンおよび一〇一・A5物質に関する生物学的研究の他、多数の興味ある細菌学・免疫学に関する諸報告があつたわけである。

なお恒例の口腔細菌学談話会が、学会前日の午後二時半から医歯大会議室でもたれ、大西正男教授司会の下、数十名の同好者を集めて前記歯科大学から本学会出題のテーマについて懇談された。特別講演として日大・緒方規雄教授が「スピロヘータが口腔に現われる時期」と題して熱弁をふるわれた。

次回談話会は従つて明春岡山の学

場合の作用機転に就いての研究
通過 昭和三十一年七月四日 慶応義塾大学医学部教授会
学位記認可 昭和三十一年十二月二十八日
林 芳雄君(昭和十六年卒)
主論文 歯牙処置の脾臓容積に及ぼす影響に就いて
通過 昭和三十一年七月九日慶応義塾大学医学部教授会
学位記認可 昭和三十一年九月十五日
日 弘田仁哉君(昭和二十二年卒)
主論文 ソナグラフによる発音の研究
通過 昭和三十一年七月十五日東北大学医学部教授会
学位記認可 昭和三十一年九月十五日
日 田崎 敬君(昭和二十年卒)
主論文 単一神経線維に於ける電流滑走距離に就いて
通過 昭和三十一年十月一日慶応義塾大学医学部教授会
学位記認可 昭和三十一年十一月十日
飯田精一君(昭和十九年卒)
主論文 家兔腸管血管の神経性変動に就いて
通過 昭和三十一年十二月十七日慶応義塾大学医学部教授会
学位記認可 昭和三十一年三月十一日
日 山田教授(前生理学教室)
指導による学位受領者
いささか旧聞に属するが、昭和三十年十月まで本校の生理学教室を担当されていた山田守教授(現鳥取大学医学部教授、第一生理学教室主任)の指導の下に研鑽され、芽出農く学位を受領された方々の御紹介されが、ありますので、以下一擧して報告させていただきます。ここに改めて左記諸博士並に同窓各位に深く延引のお詫びを申し上げます。
三輪英武君(旧姓鶴田)(昭和二十二年卒)
主論文「温度効果における植物の意義について」他参考論文六編、慶応大学教授会において、加藤元一教授主宰のもとに、昭和二十九年五月論通過。
同君は現在、世田谷成城町にて開業、二児の父として活躍しておられる。
原 学郎君(昭和十七年卒)
主論文「歯牙及び周囲組織の知覚に関する生理学的考察」他参考論文七編、
慶応大学教授会において、昭和二十九年十月岡田教授主査のもとに通過同年十二月学位記受領。

学位受領者紹介

生理学教室で研究した同窓新博士の人達

一九五六年は去り、そして一九五七年が訪れ、斯くて遠慮なく時は進み、生きる人達いづれも、年を取らされてゐる。

さて私共の生理学教室も四年目に、なり、一応研究がすみ、学位記を戴いた同窓の人達も六名になつた。

其人達は、人物推薦書の、性質、素行、勤怠、才能、交友、思想、研



前右より 林、清水、敬君の各氏
後右より 田崎、飯田、弘田の各氏

究態度に対する所見及び其他に、非の打ちどころのない医学博士の学位を授与するに足る方々である。

清水孝熊君(昭和八年卒)
主論文 歯牙処置時の生体及ぼす影響因子たる歯牙振動及びその伝導機構に就いて
通過 昭和三十一年六月十二日大阪大学医学部教授会
学位記認可 昭和三十一年八月九日
坂倉一民君(昭和十八年卒)
主論文 生体内神経に麻酔薬を与え

同助教教授は卒業以来母校保存学教室で研究に精進されていると共に学生指導の面でも大いに活躍されている。濃厚実篤の士である。尚現在には特に齒槽膿漏科診療の責任者としての重責にある。

矢島忠夫君(昭和二十二年卒)

主論文「歯牙の光弾性実験」
慶応大学教授会において岡田満教授主査のもとに昭和二十九年十二月十三日論文通過。

同君は母校卒業後直ちに補綴学教室に入られ昭和三十年四月助教教授となられたが同年八月母校を退職せられ現在港区芝で開業、幸子夫人(東齒二十七年卒)と共に活躍しておられる。

船坂豊君(昭和二十二年卒)

主論文「一、齒輪に対する種々薬品の効果、二、新誘導法による齒輪の電気的性質」
慶応大学教授会において、加藤元一教授主査のもとに、昭和三十年一月論文通過。三月三十一日学位記受領、同君は前記三輪・矢島両君と同期で目下浅草橋にて開業準備中。旧暦八日、新家庭をもたれた。

三宅直晴君(昭和二十三年卒)

主論文「口腔内感覚点の分布について」三編
昭和三十年五月、慶応大学教授会を、岡田満教授主査の下に論文通過。

同君は、母校を卒業後直ちに補綴学教室に入室、その後昭和二十八年講師に任ぜられたが、昭和三十一年

年慶応大学病院に転出せられ、昭和三十一年十一月新夫人を迎えられ、に慶応を退職せられ、目下日本橋にて、敵父と共に診療に専念されている。

秋山欣勇君(昭和二十三年卒)

主論文「ストリキニンによる単一神経線維の反復興奮について」
慶応大学教授会を、加藤元一教授の主査で昭和三十年六月廿七日通過、同君は卒業後、直ちに母校外科学教室に入室せられ、後補綴部に転部、講師となられたが現在は退職せられて、平塚に開業しておられる。

出井義教君(昭和二十年卒)

主論文「歯冠補綴物支台歯の力学考察」参考論文七編
昭和三十年七月、慶応大学医学部教授会にて、岡田満教授主査の学位記を受領せられた。

篠原健一君(昭和二十三年卒)

主論文「神経線維の興奮伝導における髄鞘被覆部の役割」
慶応大学教授会において、加藤元一教授主査のもとに、昭和三十一年九月二十七日通過。

同君は、卒業後、長らく慶応大学医学部歯科に籍をおき、医局長として敏腕を奮つておられたが、現在は世田谷区上北沢において開業されている。

大和和彦一君(昭和二十二年卒)

主論文「鈎の歯牙に及ぼす影響について」他に参考論文三編
慶応大学教授会において岡田満教授主査のもとに昭和三十一年五月十四日論文通過。

同君は現在大塚にて、父君、夫人と共に診療所を出し盛業中である。渡辺孝夫君(昭和二十年卒)

主論文「金属インレー窩洞の光弾性実験による静力学考察」副論文三編
慶応大学教授会において岡田満教授主査のもとに、昭和三十一年六月四日論文通過。

同君は現在国府台にて開業、小椋日本歯科医師会長の一人娘である夫人との間には一男一女がある。鳥種邦君(昭和二十三年卒)

主論文「有髄神経線維の髄鞘の電気的諸性質と伝導速度との関係」
昭和三十一年六月十八日、慶応大学教授会を、加藤元一教授主査のもとに通過。

同君は、昭和三十一年四月補綴の兼任講師となり学生指導に務めるかたわら、日本相互銀行診療所にも勤務されている。長田昇君(昭和二十五年卒)

十七日論文通過
同君は卒業後直ちに補綴学教室に入られ三十二年四月講師となり学生の指導に活躍しておられる。

木本 信義君

キモトノブヨシ君は広島県豊田郡豊町大長と言う瀬戸内海の小島の生れた本年とつて五十才。昭和七年わたしと同期の卒業翌年軍隊に入られたが、昭和九年夫人の郷理である京都で開業され終戦を迎えられた。戦後、本籍の広島で歯科医院を開設されたが、二十六年五月、長男の母校入学を機に上京し同級の玉井俊治博士(広島県三原市市立病院歯科部長)の後任として東京国立武蔵養育所歯科部長に就任され、今日に至っている。上京されて以来、勤務先の療養所で所長関根真一博士指導の下に咬合正の研究を始められたが、その後わたしの世話で母校生理学教室の伊藤秀三郎教授に指導の下に研究を完成された。

主論文は自身の職場を舞台とする電気衝撃療法の際の精神病患者の歯牙障害をテーマとし、本研究に不可欠の新型咬合圧測定器を苦心悩みの末案出されている。去る一月十二日東京医科大学教授会では主査として精神科の柴田教授の下満場一致通過し、越えて三月二十九日ある学位記が授与せられた。謹祝(米沢和一記)

主論文(一編)電気衝撃療法の際の歯牙障害に関する臨床歯科学的生理学的研究。歯科学報五七巻一、号掲載

市之川正二君
イチノカワマサニ君は母校を昭和十年卒業と同時に当微生物学教室へ副手として入室、当時助手であつた私の片腕となつて研究をされた。非常に情熱的な努力家で、その時すでに今日あるを約束された様な立派な仕事ぶりであつた。途中家庭の都合で研究を中絶した。二年間当時盛岡におられた大正十年母校卒業の西尾松郎氏の所で臨床の勉強をされた。非常に創意に富み仕事熱心で、この人ならなかつて切つてもいいと言われる程であつた。盛岡を辞して現在の北海道帯広市で開業されて来たが、予想通り、門前市をなす繁栄ぶりである。終戦後再び母校にもどられ、細菌学に勤まれたが、その研究よりは寝食を忘れ三日分を一日でやつてのける程の熱心さで、私の学位論文でも容易に出来なかつた歯牙溶解菌の免疫学的研究を論文提出中とのこと。東京医科大学に在る大黒教授(細菌学)副査は鈴木(血清学)篠井(外科)両教授のもとに満場一致で通過され、学位記は四月十七日付で御同慶にたえない次第である。新博士は家庭では、すえを夫人との間の二男二女の子きババであり、趣味は尺八、御健闘を祈る(米沢和一記)

主論文(一編)下水菌の細菌学的免疫学的研究(東京医科大学雑誌第十四巻第六号)

眞保 弘君



シンボロム君は新潟県高田市の本町二丁目同窓会員の長男として大正十年の生れ。昭和十四年春、県立高田中学を経て母校へ入学。昭和十七年九月の繰上げ卒業。卒業論文はわたしの指導で書かれたのであるが、金大にいた私を便つて直ちに後記大山・青木両君と共に金沢医科大学に転学し、二十一年九月に卒業して医学士となる。この組は、母校解剖学の上条教授や大山先生をはじめとして医学校出身の組が多く、当教室では眞保君の世話で入室した、青木富士彌博士もその一人である。卒業後金大病院熊野御堂外科で臨床のかたわら主論文の「イレウス大に於ける血清カリウム値に及ぼす諸種薬剤の影響」についての研究をはじめとして、諸種外科的疾患における術前術後の血清カリウム・ナトリウム値についてなど、その他、数編の貴重な臨床報告がある。八年の長きにわたつて同教授の直接指導をうけ、昭和三十年五月わたしの郷里に近い富山県朝日町・油病院の外科部長に就任現在に及んでゐる。さる二月四日金大教授会に左の論文が通過、三月二十二日付榮ある学位記が授与された。謹祝。(米沢和一記)

田村 陽君



タムラヒロシ君は栃木県小山市の本籍を最近江東区深川住吉町二の二の診療所に移された。本学は昭和二十二年三月の卒業であつて第一回の国試受験組である。その後直ちに現任所(本籍に同じ)で開業して以来今日に及んでゐる。昭和二十五年卒業の事でわたしの所へ来られて以来教室で弗素ダインの研究に従事していたが二十九八年自身でも弗素化学研究所を現任所に設置し、その方面でも調査研究を積んでこられた。教室で三編よりなる「口腔および歯牙に用いる吸着剤に関する研究」を完成されたが本論文が本年二月十八日主査岡田満教授、副査関田・牛場両教授の下に慶大医学部教授会を通過し四月十七日付、学位記が授与された。

国本 朝雄君



クニモトアサオ君は北海道旭川市の生れ昭和十一年母校を卒業された。二年後時の同仁会歯科医員となり、北支・石門市で診療と研究に従事されたが、終戦で一切を捨て、帰国された。しかし、向学の志止み難く、千葉県銚子病院国立世田谷病院等で歯科医長を歴任し、私の横浜の診療所や、日本橋天野歯科勤務のかたわら母校微生物学教室主任米沢教授の機嫌の下に得意な「飼食統計法に関する研究」をこつ／＼と積み重ねて行かれた。昭和十八、九年の頃、奥村前学長の主宰された母校解剖学教室に在籍された縁故もあつてか、昭和二十七年新設されたばかりの母校口腔衛生学教室の兼任講師を命ぜられ、目下は杉並区上高井戸四の一八九二で開業中である。

小林 伴雄君



(旧姓北野)大正十三年静岡県に生れ、郷里山崎中学卒業、昭和十八年、母校入学、昭和二十二年三月、終戦後最初の卒業生として学窓を出第一回国家試験に合格、直ちに当教室出身で富山市に開業されている山崎安三博士の診療所に招聘され、将来を嘱望されておられたが不幸病を得て二十五年帰郷静養に努めた結果程なく本復、二十六年懇望されて小森家に入り(薄上院長幹旋)岳父を援けつつ薄上院長の紹介で私の教室に専攻生として入室、日夜熱心なる研究を続け、美事な成果を挙げられたのでこれを認め学位論文とし、東京医科大学に提出中であつたが、大高裕一教授(細菌)原三郎教授(薬理)両副査御協力のもとに精細な審査が行われた結果、三十一年十二月二十二日同教授会を満場一致で通過、去る三月十一日付芽出度く榮ある学位記を受領された。

北村 宗久君



大正十五年東京生れ昭和十九年都立九段中学卒業、直ちに母校に入学、戦雲日に非なる中に生徒動員、華山疎解とあつただしに時期に勉学、昭和二十三年三月卒業。第三回国家試験合格、母校研究科入学、二十四年三月研究科卒業、引き続き保存学教室助手に採用され、二十六年四月、当病理学教室に専攻生として入室、臨床に熱中する傍真摯熱闘の研究を続けられた結果、優秀なる成果を獲られたので、これを認め、三十一年八月東京慈恵会医科大学教授会に学位請求論文として提出中であつたが、主査高木文一教授(病理)副査大場勝利教授(病理)樋口一成教授(産婦人科、院長)のもとに審査の結果、去る三月二十五日満場一致をもつて同教授会を通過し、超えて四月三十日同大学會議審において、学位記の授与式が行われ、榮ある学位記を受領された。誠に御同慶の至りにたえない。謹んで御祝ひ申上げる。

同君は、人も知る北村宗一氏の三男、父君はもちろん長兄尚信氏もすでに学位を得られ、次兄も目下研究執行中であり近い将来父子四名が揃つて学位を所有せられるという古今に稀なる学者一家、学者の地として定評ある信州出身の面目躍如たるものを感じるしだいである。だがこの際、同君が決して七光族の仲間でないことを附記して將來の大成を祈る(松宮誠一記)

主論文、実験的感染根管治療に於ける根管消毒状況と根端附近組織治癒進行状態との関係に関する病理組織的並びに組織細菌的研究。

同君の研究を直接指導されたのは、現公衆衛生院次長曾田長宗博士で成果は東歯学会や口腔衛生学会に発表されている。学位請求論文となつた所の、在来困難とされていた時間的條件を加味した飼食統計法に関する研究は、東京医歯大衛生学北博正教授の注目激賞する所となり、同教授主査、歯学部恒垣、岡本両教授副査となり、去る一月六日の同大学教授会を満場一致で通過、越えて三月二十二日榮ある学位記が授与された。謹祝。(大久保信一記)

主論文、感染根管治療に於ける根管消毒ならびに根管充填の意義に関する実験的研究。

主論文、実験的感染根管治療に於ける根管消毒状況と根端附近組織治癒進行状態との関係に関する病理組織的並びに組織細菌的研究。

主論文、実験的感染根管治療に於ける根管消毒状況と根端附近組織治癒進行状態との関係に関する病理組織的並びに組織細菌的研究。

支部通信

浅草支部

春まだ浅い三月八日水道橋の流れは大川を通じて浅草田原町料亭「やっこ」で総会を開き、かつ我等が待望の福島教授歓迎の祝宴とは相成つた。午後六時から役員改選も簡単に終わった。別席を設けて学長就任の事であつて、我等が神様だつたらあつと大々的に飛躍するのであつた。

閉会後、新学長も若かりし時ポートの選手として墨堤で鳴らした腕の主だ。あの一着の時は何番を漕いだでしょうか。遂本人から聴漏らしたので無電があつたら外圭三君辺りに訊いて見たかつた。歓迎宴では支部長の挨拶後福島教授から大学院の過去、現在、未来に涉つて詳細な幻燈を用いての解説があり、了つて余興には佐藤徳三郎君の素人難した手品、滝沢君のガマの油、武藤君の満洲クレーン、新学長の隠芸等々で最後に中久喜副支部長の閉会の辞があつて、目出度く十時頃宴を閉じた。(沢口記)

出席者、山添、古屋、滝沢、酒井、渡辺、中久喜八十、武藤、石原、加藤、熊谷、佐藤、野口、本山、岡田、中久喜喬、沢口、新役員。

支部長 沢口 源作(重)
副支部長 中久喜八十(重)
理事 渡辺 篤(重)
同 古屋 寛(重)
同 山添新一郎(新)

クラス会便り

仁蜂会

○今秋の総会(東京)は昨年京都の後とて名企圖難です。御意見拝聴したいところ、何とか関西の諸君の労を慰うプランをと奮心しています。

○学校歯科医大会が岐阜で七月二十一日、二日行われますので、現地の杉山、岩崎、永田三君にお世話願つて臨時クラス会は如何かと思ひます。

岐阜へ行かれる方々に念のため、杉山正彦君、岐阜市柳瀬丸物デパート(歯科)一応行かれる方は幹事まで連絡下さい。

○近く新装なつた会員名簿が出来上りますから送ります。

○十五周年記念アルバムは八十四名の写真が集り、あと一息です。未送の方は催促ハガキ九回にも及んでいゝる点を御推察の上、かつ一名の洩もないようとの編集委員の熱意を浴んで早くお送り願ひます。

○東京会は隔月例会を持つ事になりました。

四月六日、赤坂グランドホテル(幹事提)

四月六日 神楽坂「さわら」(幹事二瓶) 関西より高橋郁夫、棟久正両君を迎えて三月を繰下けました。

五月十一日、神田「もとみや」(幹事青木七郎) 関西より、小出秀二郎君を迎えました。

○七月一三日(土)は幹事、愛知、田口両君の御世話で東京会の予定です。地方の方も上京の折は事前に必ず幹事まで連絡下さい。なるべく東京会に出席される様計りますから。(堤)

昭久会



先に本会報紙上にお知らせ致しました昭久会有志旅行会は五月十八、九日新緑の伊香保(古久屋)に過ぎました。会するもの、堀、安達(嘉)、吉田、中山、田中、鈴木(嘉)、谷越、佐竹の諸兄でした。席上すでに確定しました二十周年記念総会を関西に開催するに就て、期日は目下関西と交渉中です。

諸兄の御協力を願つて居ります。尚、記念アルバム製作に就て特別会費として一〇〇〇円計上して居りますので予約を募集します。就きましては近況の写真(なるべく原板)を御送付願ひ、よりよきものと念願して居ります。

尚帰途谷越君宅へ一同不躰に御邪魔に上り、御家族の心からなるおもてなしを受けました。紙上を以て厚く御礼申上げる次第です。(安達、中山記)

完全治療の決定版

関根教授御指導

乾熱滅菌器

—30秒で無菌操作ができる—

花沢式裏装充填器

杉山式膿漏スケーラー

関根式根管充填器

木村式歯齦切除刀

アルギン注入器

アマalgam充填器

その他在庫豊富



上島歯科精器製作

台東区西黒門町17番地 TEL.(83) 3394

大好評の新製品

ザロカインパスタ

塗布麻酔には…すぐ効く!
ザロカイン パスタ
を御使用下さい。

麻酔…コカインの約10倍でその効果は極めて早く深く且つ持続性がある。

消毒…麻酔と消毒を同時に行うことができて着色してあるので塗布部を明瞭に確認できる。

容器…特殊容器により、操作が確實簡便で必要な最少量を塗布し得る。

〔包装〕…セット { 2.5g 入塗布容器 1ヶ
補充用 5g 入チューブ 1付
¥ 400
…補充用 5g 入チューブ
¥ 200

ネオ製薬工業株式会社

東京乱歩谷区羽沢町30番地
電話 青山 (40) 3768 番